

会議録【要点筆記】

会議名称	第3回 米沢市教育振興基本計画検討委員会																		
開催日時	令和7年12月16日(火) 9時30分～11時10分																		
開催場所	置賜総合文化センター2階 203研修室																		
出席者	<table border="0"> <thead> <tr> <th>(委員等氏名)</th> <th>(所属団体等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>委員長 山口 玲子</td> <td>米沢市小学校長会会長/米沢市立興譲小学校長</td> </tr> <tr> <td>委員 土田 知良</td> <td>米沢市中学校長会/米沢市立第二中学校長</td> </tr> <tr> <td>委員 西辻 祥太郎</td> <td>山形大学工学部准教授</td> </tr> <tr> <td>委員 宇山 栄一</td> <td>米沢市社会教育委員・米沢市公民館運営審議会委員長</td> </tr> <tr> <td>委員 佐藤 美洋</td> <td>米沢市PTA連合会会長</td> </tr> <tr> <td>委員 大河原 真樹</td> <td>米沢市スポーツ協会副会長</td> </tr> <tr> <td>委員 安部 剛</td> <td>米沢市民生委員・児童委員連合協議会</td> </tr> <tr> <td>委員 舟山 康子</td> <td>公募委員</td> </tr> </tbody> </table>	(委員等氏名)	(所属団体等)	委員長 山口 玲子	米沢市小学校長会会長/米沢市立興譲小学校長	委員 土田 知良	米沢市中学校長会/米沢市立第二中学校長	委員 西辻 祥太郎	山形大学工学部准教授	委員 宇山 栄一	米沢市社会教育委員・米沢市公民館運営審議会委員長	委員 佐藤 美洋	米沢市PTA連合会会長	委員 大河原 真樹	米沢市スポーツ協会副会長	委員 安部 剛	米沢市民生委員・児童委員連合協議会	委員 舟山 康子	公募委員
(委員等氏名)	(所属団体等)																		
委員長 山口 玲子	米沢市小学校長会会長/米沢市立興譲小学校長																		
委員 土田 知良	米沢市中学校長会/米沢市立第二中学校長																		
委員 西辻 祥太郎	山形大学工学部准教授																		
委員 宇山 栄一	米沢市社会教育委員・米沢市公民館運営審議会委員長																		
委員 佐藤 美洋	米沢市PTA連合会会長																		
委員 大河原 真樹	米沢市スポーツ協会副会長																		
委員 安部 剛	米沢市民生委員・児童委員連合協議会																		
委員 舟山 康子	公募委員																		
欠席者	<table border="0"> <tbody> <tr> <td>委員 吉田 直史</td> <td>米沢市内高等学校長会/山形県立米沢興譲館高等学校長</td> </tr> <tr> <td>委員 石崎 毅</td> <td>山形県立米沢女子短期大学教授</td> </tr> <tr> <td>委員 高梨 弘子</td> <td>米沢市私立幼稚園・認定こども園連合会</td> </tr> <tr> <td>委員 佐藤 繁</td> <td>米沢市芸術文化協会会長</td> </tr> <tr> <td>委員 曾根 伸之</td> <td>米沢市上杉博物館館長</td> </tr> <tr> <td>委員 遠藤 正紀</td> <td>米沢商工会議所青年部</td> </tr> </tbody> </table>	委員 吉田 直史	米沢市内高等学校長会/山形県立米沢興譲館高等学校長	委員 石崎 毅	山形県立米沢女子短期大学教授	委員 高梨 弘子	米沢市私立幼稚園・認定こども園連合会	委員 佐藤 繁	米沢市芸術文化協会会長	委員 曾根 伸之	米沢市上杉博物館館長	委員 遠藤 正紀	米沢商工会議所青年部						
委員 吉田 直史	米沢市内高等学校長会/山形県立米沢興譲館高等学校長																		
委員 石崎 毅	山形県立米沢女子短期大学教授																		
委員 高梨 弘子	米沢市私立幼稚園・認定こども園連合会																		
委員 佐藤 繁	米沢市芸術文化協会会長																		
委員 曾根 伸之	米沢市上杉博物館館長																		
委員 遠藤 正紀	米沢商工会議所青年部																		
事務局出席者	教育長、教育管理部長、教育指導部長、教育総務課長、社会教育文化課長、社会教育文化課主幹、スポーツ課長、学校教育課長、適正規模・適正配置推進主幹、教育総務課長補佐兼総務主査、教育総務課上席専門員、教育総務課主任(総務担当)																		
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 教育長あいさつ 3 協議 <ol style="list-style-type: none"> (1) 第2期米沢市教育振興基本計画(案)について (2) その他 4 その他 5 閉会 																		
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・出席者名簿 ・第2期米沢市教育振興基本計画(案) ・教育委員会所管事務の市長部局への移管について ・【参考】事前に電子申請で頂戴した御意見・御質問等 																		
会議内容																			
<p>【1 開会】 省略</p> <p>【2 教育長あいさつ】 ・前回までの検討委員会では数多くの貴重な御意見をいただきお礼申し上げます。いた</p>																			

だいた意見を基に、社会の急激な変化と時代の要請に対応する計画、そして、米沢らしさを随所にちりばめた計画となるように、事務局で検討を進めてきた。今回の検討委員会は、パブリック・コメント実施前のまとめの会となることから、忌憚ない御意見をいただきたい。

- ・また、一つ御報告申し上げる。市議会12月定例会に上程しているが、教育委員会の組織について大きな動きがある。概略としては、現在教育委員会が所管している文化、スポーツ分野を市長部局に移管し、観光文化スポーツ部の新設を予定している。これは、文化・スポーツと観光行政をさらに強く連携させ、交流人口の拡大や、地域のにぎわいの創出につなげるものである。詳細については、後程、教育管理部長から御説明申し上げます。

【3 協 議】

(1) 第2期米沢市教育振興基本計画（案）について

事務局から計画案に基づき説明があった後、教育委員会所管事務の市長部局への移管について説明が行われた。その後、委員から下記のとおり意見等が出された。

委員長

- ・新たな情報として、教育委員会所管事務の市長部局への移管について説明があった。質問や意見等があれば、先に伺いたい。

委員

- ・スポーツに関しては、学校体育を除く部分が市長部局へ移管するという説明だが、部活動地域展開により地域へ移行した後のクラブは、どちらの所管になるのか。

事務局

- ・教育委員会と市長部局の両方にまたがることになる。現在、部活動地域展開は学校教育課主導で進めているが、今後はよりスポーツ分野も関わってくるので、部活動地域展開については移管を視野に入れていく。ただし、学校の中での部活動については、学校体育と一緒に学校教育課の所管として残る。

委員

- ・全国のスポーツ推進委員会の大会において、各地から部活動地域展開についての疑問や心配が噴出し、文科省職員が説明に追われたと聞いている。つまり、47都道府県どこも困っている。部活動地域展開については、本当に心配のないようお願いしたい。全国的な課題なので難しいと思うが、「そうすることがいい」、「その方が理想的」といった美辞麗句に惑わされて本当に困るのは子ども達なので、丁寧な説明と準備をお願いしたい。

委員長

- ・教育委員会所管事務の市長部局への移管の動きがある一方、計画の施策等の掲載はこのままという説明であることから、本委員会では、検討を進めていきたい。
- ・資料の順番に沿って意見を頂戴したい。第1章から第3章までについて、意見や感想等いかがか。

委員

- ・個人、家庭、学校、地域においてしあわせが循環するイメージの中で、横の連携がどのようになるのか確認したい。

事務局

- ・教育委員も、移管後の市長部局と教育委員会との連携を懸念されていた。今回の市議会への議案提出に当たり、移管後も教育行政に支障が及ばないように連携を図ることを教育委員会の意見として市議会に提出した。総合教育会議において様々な情報の共有、進捗状況の報告などを受けながら、連携を図っていきたいと考えている。

教育長

- ・教育総務課長からも説明があったが、文化・スポーツは、教育においても人生においても大変大きな要素であることから、移管したから教育委員会が関わらないのではなく、これまで以上に連携を深めていきたいという話を市長部局にも申し上げている。
- ・部活動の地域展開は、先程委員から発言があったとおり、様々な取組が全国各地でなされ、試行錯誤が行われている。本市でも、様々な団体と調整しながら進めている。組織改編があってもすぐに移管するわけではなく、スタートを学校教育課が丁寧に進め、将来的には、子どもも大人もスポーツに親しむ、市民のスポーツという観点で、市全体で取り組むような方向性で進めたいと思っている。急に任せきりになることはないので、より連携を強めて教育委員会としても関わっていく。

委員

- ・4ページの「人生100年時代の到来」について、子育てが終わった後に再び社会に出た人間として、社会に出た後も人は学ぶことを繰り返すということが、自分の人生の中でもすごく考えたことだ。
- ・自分が仕事をしている時に感じることとして、私の年代であるとIT環境についていくのがやっとなのである。社会教育において様々な策を講じている中で、IT格差というものを感じることもある。今後は、社会教育としてすべての年代の人が、米沢に生きて素晴らしい経験をますます共有できる体制を取っていただけることに期待している。

委員長

- ・先に進み、第4章基本目標1、資料17ページから24ページについて御意見をいただきたい。

委員

- ・成果指標の目標値について現状値より下がっている項目がある。例えば20ページの「『自分にはよいところがある』と回答する児童生徒の割合」は、現状値も高くないと感じる。これは100%にならなければいけない項目ではないのか。次の項目の「『普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがよくある・ときどきある』と回答する児童生徒の割合」も100%にしないといけないのではないのか。成果指標は、教育委員会としてどういう子どもを育成するかということであり、20ページの「CEFR A1 レベル相当以上の英語力を取得または有すると思われる中学生の割合」以外は、全部100%でなければならないのではないのか。
- ・同様のことが22ページ、24ページの成果指標にも言える。教育委員会の気概とか矜持がこの数字に出てくるのではないのか。現状より下回るというのは、教育委員会の姿勢を疑う。

委員

- ・成果指標の目標値が下がっているところは私も気になった。例えば20ページで「体

育の授業が楽しいと感じる児童生徒の割合」の目標値が小学校・中学校共に下がっているにも関わらず、32～33 ページのスポーツに関する成果指標の目標値は全て上向きになっている。計画全体として一貫性がないというか、矛盾しているように感じられるので、見直していただきたい。

委員

- ・成果指標の目標値が下がる点について、学校教育課長から最低限達成したいラインを設定したという説明があったが、少なくとも現状維持か、それよりも少し上乘せをするのが目標値であって、ここまで成果を上げたいという意気込みや矜持といったものを示した方がいいのではないかと委員も同じような考えで事前の意見を書かれていると拝見したところだ。
- ・また、成果指標について「何%達成した」ということと「何回実施した」ということでは中身が違うと思う。成果指標と活動指標は違うので、「何回実施したから目標を達成した」という考え方は、「その事業の中身はどうでもいいのか」と問われないのか心配である。そう考えた時に、例えば、社会教育関係では、「出前講座を何回実施して満足度はどのくらいだった」であれば分かるが、回数の問題ではないのではないかと捉えている。

事務局

- ・最初の説明の中で申し上げたとおり、目標値は「何としても最低ここは超えたい」という点を今までの経過も見ながら設定した。ただし、85%でいいとか、90%でいいということは、私達も全く思っていない。委員のお言葉を受けながら、成果指標については再度考えてみたい。
- ・100%になるための手立ては教育委員会ではもちろん行っている。例えば、教員の100%がICTを使えるように研修等を行っており、学校とも協力しながら100%を達成できるように考えた上で、目標設定を考えていきたい。
- ・委員から回数の設定なのか、または満足度の設定なのかという点について御意見いただいた。回数が多ければいいわけではなく、内容の問題という点は非常に大事だと感じる。内容については、生徒のアンケート等が必要であり、内容の充実という点では、教育委員会も関わっていく部分が必要だとは思う。大事な御意見として受け止めたい。

事務局

- ・基本目標2の成果指標では、回数や満足度を用いている。特に26ページについて、例えば「鷹山大学講座参加者の満足度」は、現状値95%から目標値を98%としている一方、他の項目については受講者数や回数を指標としている。これは、社会教育文化課が主催している講座のみではないことから、アンケートなどによる満足度をすべての指標とするのは難しいと考えている。1つ目の「高等教育機関開放講座受講者数」については、受講者数を指標としており、参加される方が多いということ測っている。2つ目の「米沢市まちづくり出前講座開催回数」については、市民の要請によって行う講座であることから、回数が増えれば市民のニーズが高まっているということ測ることができる。3つ目の「小中学生職業体験セミナー開催回数」については、施策の中にも記載しているが、まずは機会を提供したいということから、回数を指標としている。各項目と指標は、社会教育文化課で

検討の上、今後5年間進めていきたいと考えて設けていることから、その点については御理解いただきたい。

委員

- ・成果指標は令和12年度までの5年間でこれぐらい達成するということであり、本当は単年度でも達成しなければならないことではないのか。先程も発言したとおり、例えば20ページの「『自分にはよいところがある』と回答する児童生徒の割合」は来年でもすぐに100%にしなければならないわけであり、あと5年あれば、本当に思い切った数値を出さなければいけないのではないのか。1年での達成は無理かもしれないが、5年後には達成するというのもぜひ考えていただきたい。

委員長

- ・成果指標について、たくさんの意見が出ているので、もう一度見直しを行いつつ、どのような設定にするのか確認していただきたい。また、満足度を測るにはアンケートも必要ということもあったので、5年間様々な施策を展開していく中で、満足度をどのように推し測っていくのか、具体的なものを今後検討いただき、総合教育会議の中、あるいは5年後の見直しの中では、表記の目標値だけではなく、そこに含まれる参加者の思いといったものが少し説明に加えられるように、様々な企画を展開していただくとよいと感じる。
- ・私自身難しいと感じているのは、例えば22ページの「授業において、ICTを活用して指導できる教員の割合」あるいは「教材研究・指導の準備・評価・校務等において、ICTを活用できる教員の割合」である。各教員が何らかの努力をして使っているが、すごく得意な人とやっと使ってる人ではその中身が違う。「できる教員の割合」といったときに、どの段階を取って目標を達成したと言えるのか分かりにくい。目指すのは全員が使えることだと思うが、中身の段階的なものは表れにくいと思うので、様々な研修も展開していただきたいと思っている。
- ・ぜひ、委員の皆様の様々な御意見を検討いただきたい。

委員

- ・20ページの成果指標に「CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得または有すると思われる中学生の割合」とあるが、どのように測っているのか。

事務局

- ・学校に毎年アンケートを行い、このレベル相当の英語力があると思われる生徒がどれぐらいなのか調査している。

委員

- ・失礼な言い方かもしれないが、教員の言うことを鵜呑みにするということか。「有すると思われる」と教員が思えば、数値はいくらでもコントロールできると思うので大丈夫なのか。また、19ページの主な取組として「(6) 外国語教育の推進」は2行しか記載がない。数値を上げるために何か取り組むことは、特に記載しないということか。

事務局

- ・成果指標は、あくまで学校から聞いた数字で設定している。毎年、教員からも質問を受けながら、判断基準が難しいところがあるが、調査を依頼している。現在のところはこれで測ることを考えている。

- ・「外国語教育の推進」について記載が少ない点は、記載が無いことも行っている。毎年、外国語教育について、中学校の英語科教諭や小学校教諭で外国語教育を学びたい教員を集めた研修会を実施している。

委員

- ・せっかくの取組だが、記載しなくてよいのか。

事務局

- ・今回のところは載せないと考えたところだが、今の御意見も含めて検討したい。

事務局

- ・委員から意見をいただいたので、できるだけ端的に分かりやすく、具体的な取組を紹介できるように検討したい。

委員

- ・19 ページ「(5)学校不適応児童生徒への支援」の中で「チーム学校」という言葉がある。「チーム学校」という言葉は学校だけで取り組むような印象があるので、できれば地域も含めたことを行っていただきたい。学校だけで対応すると、見守りが継続的ではなくなる。そういう面を地域、例えば民生委員や主任児童委員がカバーできればよいと考えており、ぜひ、学校と地域の連携という面を行っていただきたい。

委員

- ・学校不適応児童生徒への支援は大変大切な部分だと感じる。学校不適応児童生徒の割合は増えており、問題があるのは家庭だと思う。家庭そのものの支援から行わないと、居場所がないと感じる子どもが多く、だから不登校になるということを何かで読んだ。家庭環境から見直さなければ、不適応の児童生徒は減らないと思うので、その辺りも含めて検討いただきたい。

委員

- ・不登校児童生徒の支援について、スクールガイダンスプロジェクトを平成14年度から続けているが、プロジェクトの成果指標は何を用いているのか。
- ・計画案の中で不登校児童生徒の高止まりが続いているという記載が複数あるが、学校と家庭の間の学習をつなぐ支援よりは、家庭から子どもを社会の中に呼び込み、援助希求能力も含めて「大人に頼れば何とかなる」とか、子どもを学習から離れたところで生きられる場面を作らなければならない状況に来ていると感じる。今後スクールガイダンスプロジェクトをどんな展開とするのか教えて欲しい。

委員

- ・19 ページ記載の「『だれもが行きたくなる学校づくり』の理論」とはどういうものか知りたい。

事務局

- ・「だれもが行きたくなる学校づくり」から説明する。平成26年から米沢市で行っているプロジェクトで、子どもたちのつながりをつくるために教員の学習を行っている。「協同学習」、子どもたち同士のつながりである「ピアサポート」、「SEL (Social and Emotional Learning) 社会性と情動の学習」という教員の学習を行い、子ども達の間関係づくりに力を入れてきた理論である。この「だれもが行きたくなる学校づくり」と「スクールガイダンスプロジェクト」を併せて本市の不登校対策、不

適応対策を進めてきている。

- ・「スクールガイダンスプロジェクト」の成果指標と言われると、毎年数値を出してはいるが、不登校の児童生徒数が下がらない状況がある。前年よりも不登校の児童生徒数が減れば成果と呼べると思うが、例えば不登校になる児童生徒数がもっと多かったかもしれないが学校に来ている状況もあるかもしれない。そういう点では、成果と言われると返答が難しいと考えている。
- ・委員ご発言のこれまでとは違う方法による学校不適應への対応も考えられるところではある。スクールガイダンスプロジェクトは3か年計画で行っており、今年度3年目が終わり来年度から新展開になる。学校の現状を聞きながら、不登校、不適應が減るように考えていきたい。
- ・委員の家庭へのサポートが必要という意見は、非常に重要な項目である。不登校のお子さんを抱えている家庭では不安がたくさんあると思う。そういった家庭から学校教育課に連絡をもらうことも多々あり、米沢市教育支援センターにつないでいる。また、民生委員の方の力もお借りできる。そういう地域の力も大事にしながら、「チーム学校」が学校の中だけの組織に収まるのではなく、学校も様々な人の力を借りることができるような組織づくりが必要になると考えている。「チーム学校」に対しては、広い範囲が含まれているということが言葉足らずだった。

事務局

- ・「チーム学校」の捉え方については少し分かりにくい部分があったかと思う。学校だけで完結するものではなく、地域、家庭、行政関係、福祉部局であるとか、様々なところと協力体制を構築しながら進めている。その辺りが分かりやすくなるように文言を検討したい。

委員

- ・不登校の子ども達に対することで、私は22ページの「(7) 学校・家庭・地域の連携による教育環境の整備」も関連があると考えている。子どもの成長を地域全体で支えるような学校の在り方が重要だと考えているが、具体的な連携等のイメージが作られているのか。米沢市ではコミュニティセンターが教育委員会から市長部局に移管した。私は社会教育の委員であるが、コミュニティセンターの活動が見えないという現状がある。学校と地域が連携しようとした時、一番キーポイントとなるであろうコミュニティセンターの活動が教育委員会で分からない状態を作らないで欲しい。より連携して、地域にお願いするところはお願いする、地域に助けてもらうところは一緒にやってもらう、そういった具体的なイメージができればいい。
- ・基本理念にある「しあわせの循環」について図示しているが、図をどのように具現化するのか具体策に出てくるべきと考えた時、個々が立派でも、それをつなぐコーディネーター的な人がいなければ、誰がつないでくれるのかが見えない。連携協働を進める上での推進役は誰なのか、文言に表れなくても教育委員会の中で明確にしておく必要あるのではないかと思う。

委員長

- ・スクールガイダンスプロジェクトが来年度から新たなステージに入ることなので、意見を参考にしながら、より対策を取っていただきたい。
- ・19ページの「(5) 学校不適應児童生徒への支援」の表記の中で、2つ目の「多方面

からの情報による…」は比較的校内で対応する内容であり、1つ目の「スクールガイダンスプロジェクトを継続し…」は校内外との連携という印象を受けた。「チーム学校」は、校内を中心とした部分と、他機関・関係機関との連携の部分が整理されると、もう少し分かりやすいのではないかと感じた。

- ・22 ページ「(7)学校・家庭・地域の連携による教育環境の整備」も重複するかもしれないが、文言などを活用すると19 ページ(5)にも様々な機関との連携が含まれると受け取れるのではないか。
- ・『「だれもが行きたくなる学校づくり」の理論』は伝わりにくい部分なので、「スクールガイダンスプロジェクト」のように注釈を付けるのも一つの方法と考える。本市独自の取組なので、どこかに説明があってもよいのではないかと感じた。
- ・委員から発言いただいた、学習から離れた場面の必要性は、学校としては大きく感じている。計画に盛り込むよりは、今後の施策の中でそういった場面も必要と考えるので、検討に含めていただきたい。そういうことを含んだ施策であることが伝わるようお願いしたい。
- ・次に進み、基本目標の2と3について御意見をいただきたい。

委員

- ・27 ページ「施策 2-2 家庭教育・青少年教育の推進」について、家庭に何を伝えたいのか教えて欲しい。また、施策の方向性に沿った成果指標を設定した方がよいのではないか。ベクトルを地域と学校と家庭で合わせていく必要がある。その中で家庭には何を伝えたいのか、どういった家庭教育を向上させるのかを聞きたい。

事務局

- ・社会教育文化課において、各種事業を展開している。27 ページ「(3)青少年健全育成の推進」では、団体との連携が多い。そういった事業を踏まえ、保護者の学ぶ機会を通じて家庭教育・青少年教育を推進していきたい。

委員

- ・各団体に対して今回の計画の周知を図ることやベクトルを合わせていくのかが重要かと思う。十分に家庭に届くように策を打っていただきたい。家庭教育は大事だと思うが、かなりベクトルは曖昧。「米沢市はこうしたい」ということを知っていると知らないのでは全然違うと思う。知らない家庭が無いように伝えられるものが何かあればよいと感じた。

委員

- ・25 ページの「(1)高等教育機関の資源の活用」について、私の子ども達が小さい頃、「モバイルキッズケミラボ」にお世話になった。私自身も米沢女子短期大学の図書館で市立米沢図書館には無い本を見つけた。この資源を市民により広げていただければ嬉しいと感じているが、資源の活用の具体的な方策を教えてください。

事務局

- ・高等教育機関の資源の活用は、本市の事業として行っているものを計画に記載している。山形大学や米沢女子短期大学が、地域と関わり合いを持つイベント等を開催していることは把握しているが、あくまでも教育委員会が主体となるものを本計画では想定している。例えば、鷹山大学では、大学生が講師となる高齢者向けのスマホの操作等の講座を企画している。ただし、個々のイベントの内容のような細かい

点は大きな計画には記載せず、単年度予算も含めて実施していきたい。大きな幹としては、今回主な取組に記載した内容として御理解いただきたい。

委員長

- ・次に進み、基本目標4について、お気づきの点があればお願いしたい。
- ・ここまで区切って進行したが、全体を通して何かあれば御意見いただきたい。
- ・多くの意見を頂戴した。今後、計画を進めていく上で、具体策の中で意見が反映される部分もあるかと思うので、必ずしも計画の文言の修正という部分ではない御意見もあったと思う。それも含めて、本日の意見について改めて事務局で整理をしていただきたい。

教育長

- ・貴重な御意見をいただいた。地域、学校、家庭について様々なお話をいただき、学校だけでは解決できないことが浮き彫りになったと思う。家庭であったり、地域や民生委員をはじめとする関係機関とどのようにつながるか、その点を大事にしていかなければならない。
- ・委員から、統合による学校区の拡張やコミュニティセンターの話があったが、地域とどのようにつながっていくのか、文言だけではなく具体的に研究をしながら、子ども達を誰一人取り残さないということや、市民の皆さんが幸せになるような社会教育、生涯学習も含めて具体的なところを考えていきたい。また、文言については、反映できるところは反映したい。

(2) その他

省略

【4 その他】

省略

【5 閉会】

省略